

「被爆者のいない世界」

安田中学校 3年 波多野 日 賀

私は被爆80周年となる今年、平和記念式典に参列できたことをとても光栄に思います。

私は2日間を通して、いつかは訪れる被爆者のいない世界について考えました。

原子爆弾が投下されたあの日のことを皆さんは思い浮かべたことがありますか。

昭和20年8月6日午前8時15分。広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして多くの人々の日常が消えました。誰なのか分からないくらい皮膚がただれ、水を求め彷徨い続ける人々。たった一発の原子爆弾は多くの人々の命を奪い、人々の人生を変えるには十分なものでした。

このような悲劇を経験してもなお、世界から戦争はなくなっていない。

この事実を自分のこととして真摯に受けとめ、平和について考えることが大切だと思いました。

「平和」分かっているようでそれは他の人から見たら自分の思っている平和とは異なるものかもしれません。それでも、違うからといい否定から入るのではなく話し合い、歩み寄り続けることが大切なのだと私は思います。

被爆者のいない世界、そこに平和が訪れているかは分かりませんが、私はこの貴重な体験をもとに、多くの人と恒久の平和を追い求め続けたいと思いました。

「広島で学んだこと」

安田中学校 3年 成 海 敬 真

私は2日間広島派遣事業で広島に行き、一生忘れられない貴重な経験をする事ができました。その中で心に強く残ったことが3つあります。

1つ目は、平和記念式典に参列したことです。平和記念式典では原爆の悲惨さと、その出来事に対するたくさんの人の関心を肌で感じる事ができました。この式典には、お年寄りの方から小さい子供まで、そして世界各国の方々が参列されていて、「平和」ということがどれだけ普遍的で大切な価値があるものかを改めて実感する事ができました。

2つ目は、歴史的遺産を見学したことです。戦争の傷跡を伝える歴史的遺産を見学して、そこにあった跡や建物のかけら、壁に刻まれた文字から今までそうそうしていた以上の原爆の恐ろしさを感じる事ができました。破壊と悲劇を目の当たりにして、二度と同じ悲劇を繰り返してはいけないことと、平和の大切さをさらに強く実感しました。

3つ目は、広島平和記念資料館を見学したことです。ここでは原爆投下の悲惨な現実を知り、今後の平和のために何をするべきかを考える事ができました。資料館には日本人だけでなく、外国の方も多くいました。全員が真剣に展示物を見ていました。それを見て、世界中の人々が平和を願っていることを改めて実感し、その美しさに涙が出そうになりました。

この広島派遣事業で、本当にこの地球から戦争がなくなればいいと思いました。

しかし、世界ではまだ戦争が続いていて、まだ終わりは見えていません。

これからは、この広島で学んだ事を少しでも多くの人に伝え、少しでも早く戦争のない平和な世界が実現するように力になっていきたいです。

「幸せを大切に」

安田中学校 3年 本 間 楓

私がこの2日間を通して感じたことと学んだことは3つあります。

1つ目は、原爆の悲惨さです。原爆ドームや広島平和記念資料館を訪れ、私はこれは本当にあった出来事なのか？これは夢なのか？と思ってしまうもので、言葉を失いました。焼け焦げた鉄骨がむき出しになり、焼けただれた壁や崩れた柱が残る原爆ドーム。ボロボロの衣類や当時の写真、イラストが展示され、当時の景色が脳裏に浮かぶ広島平和記念資料館。私は涙で視界が歪みました。でもこれは現実で起こった出来事だと私に教えてくれるものでした。

2つ目は、これは二度と繰り返してはいけないということです。1945年8月6日午前8時15分。原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。涙とともに止まらない、絶望の声。一発の原子爆弾は多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。被爆者の方々が減ってきている今、私達若い世代や世界中の人々が戦争のことや命の重さを考え、次の世代に伝えることで変化をもたらすことができるはずです。

3つ目は、幸せの大切さです。みなさんにとっての幸せはなんですか？大切な人と時間を共にすること、美味しいものをたべること・・・どの幸せも日常のように感じるかもしれませんが、それは普通ではないのです。80年前、沢山の人の幸せが一瞬にして失われました。だからこそ今、この瞬間に感謝することが大切だと私は思いました。

この2日間を通して原爆の悲惨さと平和の尊さを改めて知ることができました。そして一人でも多くの方が広島や戦争について知ることが、これからの未来につながっていくと思いました。

「過去から託されたバトンを握って」

京ヶ瀬中学校 3年 宮 嶋 幸 生

私は広島平和記念式典に参加するため、8月5日に広島に行ってきました。

出発式では、広島と一緒に行く同じ阿賀野市の仲間たちと会いました。各学校の代表者や部活で会ったことのある人もいて、どんな話ができるのだろうと気持ちが高まりました。

新潟空港に着き、飛行機に乗りました。飛行機に乗るのは人生二回目でワクワクしました。その後、大阪駅から広島に移動し、原爆ドームに向かいました。全校生徒みんなで思いを込めて作った折り鶴を持って参加してきました。その後、英語の授業で勉強をした佐々木貞子さんの像を見学しました。学習したとき、実物を見てみたいと思っていたので、その思いが実現できて良かったです。

その後、平和記念資料館に行きました。原爆が投下された当時のことを色々な視点から見て、学ぶことができました。原爆資料として見たことのある「真っ黒な弁当箱」も実際に見ることができました。見ているだけで心が苦しかったけれど、日本人としてしっかり受け止めることが大切だと思い、様々な展示物を見てきました。すべてを見終わった後は、なんとも言えない気持ちになりました。

6日は、広島平和記念式典に参列しました。地元の方や報道の人など、予想以上の人数が集まっていたので驚きました。式典は広島市長の言葉でスタートしました。印象的だったのが、代表2名の小学生が堂々とスピーチを発表していたことです。その内容と姿勢がとても素晴らしく、8時15分、一斉に黙とうしたとき、私は原爆によって亡くなった人を悼み、慰霊する気持ちでいっぱいになりました。

私は今回広島に行かせてもらって、広島の復旧のためにここまで頑張ってきてくださった人たちにもらったバトンを途絶えさせたいと感じました。本当に良い経験をさせてもらいました。ありがとうございました。

「平和な世界に向けて」

京ヶ瀬中学校 3年 加藤 湊

私は今回の広島平和記念式典に参加させていただき、学んだことがたくさんありました。その中でも、特に印象に残ったことが3つあります。

一つ目は資料館です。資料館は1日目に訪れ、原爆が投下されたときの絵やイメージ映像を見て回りました。私の印象に強く残っているのは、原爆当時に広島の人たちが着ていた服や持ち物です。当時の人たちが8月6日に身に着けていたものが展示されていたのを見て、本当にあった出来事だったということをあらためて実感しました。

二つ目は原爆ドームです。原爆ドームを見て、「たった一発の爆弾でこの建物を壊し、広島町を襲ったのか」と考えると、原子爆弾がどれほど恐ろしいのか、人々に当たったとき、どんなだったのかと想像しても想像しきれないくらい、辛い思いになりました。

三つ目は式典での小学生のスピーチです。式典で話していたその小学生の言葉が今でも印象に残っています。

「あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が私たちにはあります。」

この言葉を聞いて、私自身もこの出来事やここ広島で学んだことを地元に戻ってから、自分の周りの人に共有して、平和や原爆について考えるきっかけにできればいいなと思いました。

今回の研修で本当に色々なことを学ぶことができました。戦争や原子爆弾の悲惨さや恐ろしさを自分の目で見て、聞いて学ぶことは普段なかなかできないことなので、経験させてもらえたことに感謝しています。平和の大切さや原爆の恐ろしさをまずは家族や友達と話して、戦争や原子爆弾のない平和な世界にしていきたいと思います。

「広島平和記念式典派遣事業を通して」

京ヶ瀬中学校 3年 齋 藤 里 桜

私は広島記念式典派遣事業に参加して、戦争の様々な状況や当時の様子、戦時下の広島の人々の思いなど、多くのことを学びました。

その中で特に記憶に残ったのは、原爆の悲惨さです。広島平和記念資料館で実際の道具や衣服を見たとき、私は言葉が出てきませんでした。絵や写真、被爆者やその遺族の言葉は、目を背けたくなるようなものばかりでした。突如、奪われた平和。当時、人々が何を思ったのか、想像することさえできませんでした。原爆は本当に多くのものを壊し、奪っていったことを実感しました。一度は生き残っても、数年後に放射線などによる原爆症を発症したり、後遺症などが残ってしまったりする人も少なくありません。戦争、そして原爆は被爆者だけでなく、残された家族や友人の心さえ傷つけるものだとし、恐怖を感じました。

私は今回の事業に参加する前、戦争も原爆もどこか他人事のように捉えていました。ですが、事業を通して実際に戦争はいつどこで起きてもおかしくないと思わなくてはならなかった。また、戦争に限らず、何があるかわからないこの世界で、今平和に生きていられることが当たり前ではないのだということにも気づかされました。

戦争は絶対に繰り返してはいけないことだと思います。戦争について、少しでも多く知っていくことが鍵になっていきます。しかし、終戦から80年経った今、私たちが生活の中で戦争の実態を知ることは簡単ではありません。だからこそ、私たちは過去の出来事について自分から知ろうとし、これからの未来へ語り継いでいくことが重要だと思います。そして、私たち一人ひとりが戦争を繰り返さないという気持ちを強くもって生きていくことが何より大切だと感じました。今回、たくさん学ぶことができ感謝しています。ありがとうございました。

「平和の尊さと私たちの責任」

水原中学校 3年 市 川 碧 生

私が広島での活動を通して一番に感じたことは平和の尊さです。最初に原爆ドームの前に立った時、崩れたレンガなどを目の当たりにして今から約80年前に起きた悲惨な原爆投下のことを想像し、言葉で言い表せないような複雑な気持ちになりました。

資料館に行った際には、被爆者の遺品や写真、被爆直後の街の様子を再現した展示を目にしました。その中でも特に印象に残ったのは焦げた子どもの衣服です。今まで自分の中で原爆が落とされたということは知っていましたが、実際に資料館を訪れたことで原爆は一人一人の生活を奪った出来事であったと強く感じました。

焼けただれた皮膚で助けを求めながら歩く人々の姿を描いた絵には胸が締め付けられ、人間が作り出した兵器がこれほど、残酷であることに言葉を失いました。資料館で知った事実から私たちには後世に語り継いで行く責任があると改めて痛感しました。

広島で自分が感じたのは、ただ「悲惨だった」という思いだけではありません。原爆ドームや資料館は原爆の恐ろしさを伝えながらも、平和を訴える場であり、二度と同じ過ちを繰り返してはいけないという思いが強く伝わってきました。核兵器が今もなお世界に残っている現実を考えると、私たち一人一人が平和について考え、声を上げていく必要があると思います。

今回の訪問を通して、自分が広島に行き、自分の目を見たことは日本の歴史について学ぶことだけではなく、今私たちにできることも思い知らせてくれました。これからは平和の大切さを忘れず、周りの人と共有し、広めていきたいと思いました。

「広島での研修を通して」

水原中学校 3年 石坂 遼 輔

私が今回の広島での研修を通して考えたことは、ことわざの「百聞は一見にしかず」です。そのように考えた理由は2つあります。。

1つ目は、原爆ドームと広島平和記念資料館を見学したことです。私たちは1日目にこの2つの場所を見学しました。原爆ドームを実際に近くで見たときに、こんなに大きな建物が一瞬にして壊れたことに驚きました。その後私は近くに展示されていたパネルを見て、原爆が新潟県長岡市にも落とされる予定だったということを初めて知り、衝撃を受けました。もし、長岡市に原爆が落とされていたら私たちの生活は今とは違っていただのではないかと考えました。

次に私達は、広島平和記念資料館を見学しました。そこで私は、文章に書き表すことができないという思いになりました。それは、私達も含めて、資料が展示されているところから出てくる人達はみんな暗い顔をしていたからです。この暗い表情の奥にある、戦争の被害を目の当たりにして、「もう被害を繰り返さない」という感情を周りの人に伝えていかないといけないと考えました。

2つ目は、8月6日に行われた平和記念式典に参列したことです。

私はそこで共感したことがありました。それは、「平和への誓い」の「いつかは訪れる、被爆者のいない世界。」と「大人だけでなく、子どもでもある私たちも平和のために行動することができます。」の2つです。被爆者がいなくなったら、戦争について語り継ぐことができるのは、このような研修を受けた私達なんだと考えました。これからは、私の周りの人達、そして後の世代に語り継いでいくことをしていきたいです。

「広島と平和」

水原中学校 3年 小 泉 青 羽

「平和」ということについて、私はあまり深く考えたことはありませんでした。なぜなら、私にとって今の生活が「平和」なのは当たり前のことと認識していたからです。しかし、今回2日間の広島研修を通して、それは間違いであることを学びました。

私がすごく衝撃を受けたことの 하나가、広島平和記念資料館での体験です。資料館には、当時の様々な写真や亡くなられた方々の遺品、人々の辛い経験などが展示されており、その全てが原爆の恐ろしさ、広島 of 悲惨な状態を物語っていました。原爆と聞くと、爆風による被害を想像することが多いですが、放射線や火災のやけどなどによって長い間苦しめられた人たちもたくさんいたそうです。大切な命がいとも簡単に奪われた過去に大きなショックを受けました。

原爆ドーム見学では、骨組みが丸見えになり、周りにがれきの落ちた建物を見て、改めて原爆の威力について知りました。原爆ドームが被爆する前の姿を模型で見ることができたのですが、左右対称のとても綺麗な物産陳列館という建物でした。原爆ドームは、戦争や原爆の恐ろしさを伝えていくものとして残していくべきという意見と、辛い記憶を人々に思い出させないために取り壊すべきという2つの意見に分かれていたそうです。しかし、原爆ドームは見る人に大きな衝撃を与える力があり、平和についてもう一度考え直すことのできるきっかけになると思います。今回原爆ドームを見学することができてよかったなと思いました。

他にも、たくさんの痛々しい記録を見てきました。現在、戦争や原爆の恐ろしさを身をもって知っている人達は減ってきています。だからこそ、経験したことのない私達がどれだけ鮮明に伝えていくことができるかによって未来は変わっていくと思いました。「広島や長崎と同じことを、もう二度と繰り返してはいけない。」その強い意識をもった人が少しでも増えてほしいと思います。そして、まずは私が家族や友達など身近な人々に伝えていきたいです。

「二度とくり返さないために」

笹神中学校 3年 川 上 さくら

私は広島平和記念式典派遣研修に参加してきました。広島に行く前は原爆についての知識があまりなく、ただ怖いものというイメージしかありませんでした。しかし実際に原爆が落ちた場所や被爆者の話を聞いて、原爆を怖いという言葉だけで片付けてはいけないなと身をもって感じました。

平和記念資料館を訪れ、原爆の悲惨さを目の当たりにしてきました。約 3,000 度から 4,000 度もの熱戦を直接受け、焼けこげたお弁当屋や、爆風によって崩れた建物、ボロボロになった服など原爆の被害は想像を超えるものでした。私が特に印象に残ったものは原爆が落とされた午前 8 時 15 分で止まってしまっている時計です。いつも何気なく過ごしていた時間が、たった一発の原爆によって一瞬にして壊されてしまいました。これを見て原爆や戦争は絶対に繰り返してはいけないことだと改めて思いました。

写真でしか見たことがなかった原爆ドームを実際に見てきて、原爆が投下された後、建物は骨組みだけになっていたり窓ガラスが全て割れていたりして、今にも崩れそうな様子を見て原爆の怖さを実感しました。

私はこの広島平和記念式典派遣研修を通して、原爆の悲惨さや怖さを実際に自分の目で見ることによって身をもって感じることができました。平和記念資料館には日本人だけではなく外国人も多くいて、「二度とこんな悲しいことは繰り返さないでほしい」という思いは、国籍や言語関係なくみんなが思っていることだと気づけました。被爆から 80 年が経ち、原爆についての想いが薄れてしまっている今、積極的にニュースやネットなどで調べたり 8 月 6 日に起きた原爆について伝え続けたりすることが大切だと思います。今あるこの平和が続くように原爆の悲惨さを沢山の人の人に伝えていきたいです。

「平和を守っていくために」

笹神中学校 3年 田 中 椋

私は、広島平和記念式典に参加して、毎日何気なく過ごしている日常や平和は当たり前ではないと感じました。

広島平和記念資料館を訪れた際に、その時着ていた服や、使っていた物、当時の写真を見ました。展示されていた服は布が破けていたり、黒く焼け焦げていたりしました。弁当箱は、中に入っていたお米が黒くなっていました。このことから原爆によって人々の日常が一瞬にして奪われたことを実感しました。また、原爆が落とされた後の広島の写真や、原爆による被害の写真を見て衝撃を受けました。建物はほとんど焼けてなくなっていたり、地面はガラスなどのがれきが散乱していたりしました。原爆による被害の写真には、火傷を負っているけど治療が受けられない人や、原爆による熱線や放射線の影響によって病気になった人が写っていました。このような写真を見た時は原爆がもたらす被害は恐ろしいものだと感じました。

広島平和記念式典を通して、たくさんのことを学ぶことができました。私は「いつかは訪れる被爆者のいない世界」という言葉を聞いて、見たり聞いたりした人が伝えていかなければならないと思いました。そうすることで原爆を知るきっかけになり、原爆を忘れることがなく平和の実現が語り継がれると思います。見たり聞いたりした人が伝え続け、二度とこのような過ちを繰り返さずこの先の平和を守っていきたいです。

「忘れられない二日間」

笹神中学校 3年 遠藤朝日

私は今回の派遣を通して、平和で何気ない当たり前だと思っていた日常がどれほど貴重で尊いものなのかということを深く理解することができました。

原爆ドームや広島平和記念資料館を訪れた際見聞きしたのは、原爆の実際の被害や被爆者の思い、実際に被爆した方の写真、爆発や放射線を受けた服や壁、当時を表した地獄のような絵。あまりにも悲惨で声も出ないような状況でした。原爆は自分の思っているより何倍も残酷で非人道的なものだと感じました。

広島平和記念資料館で声をかけてくれたおばあさんがいました。このおばあさんと、自分が見ていた原爆の被害を受けた女性の写真について少し話をしました。おばあさんは写真を見ている間悲しそうな顔で写真に声をかけていました。この方がどのような方なのかは聞くことができませんでしたが、今も原爆によって悲しい思いをしている方がいるということを改めて強く実感しました。

8月6日に行われた広島平和記念式典は言葉にできない空気の中、重く苦しい言葉が並んでいました。これが過去の戦争を表しているようでした。しかし、原爆が投下されたという過去の出来事を伝え続けることが大切なんだと感じました。

私は広島への派遣を通して、原爆投下は二度とあってはならないことだと深く心に刻むことができました。そして、被爆の経験を今日まで伝え続けてくれている被爆者の方々の努力を無駄にせず、今後も伝え続けていくことが私たちの使命だと思いました。私は広島の被爆80年という重要な年に派遣していただいたことにとても感謝しています。

この派遣で学んだ事を多くの人に広めていきたいです。そして、いつか原爆や戦争のない平和な世界が訪れることを願っています。